

小・中学校における新しい指導体制の在り方検討委員会  
「香川の新しい指導体制等の在り方について（まとめ）」【概要】

＜これまでの取組の現状（香川型指導体制）＞

平成 13 年度～ 少人数指導 複数担任制 生徒指導対応

平成 23 年度～ 少人数指導 少人数学級 学力向上基盤形成（生徒指導、特別支援等）

＜これまでの成果と課題を踏まえた今後の方向性＞

（１）「個を活かす協働的な学び」の視点

・ 「個に応じたきめ細かな指導」を継続

→ 基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得

・ 「個を活かす協働的な学び」の視点を追加

→ 知識・技能の活用や他者と協働した問題解決により新たな価値を創造

（２）児童生徒の自尊意識並びに興味や関心を高める学び

（３）小中連携

（４）新たな教育課題

・ 新学習指導要領 ・ ICT 活用 ・ 新しい生活様式 ・ 特別支援 ・ 教員多忙化

＜具体的方策＞

（１）小・中学校全学年における少人数学級の実現

「個を活かす協働的な学び」等を効果的に実現

（２）小学校高学年における教科担任制の導入

児童の学習への関心・意欲を高めるため指導の専門性の高い教員による授業

（３）「個を活かす協働的な学び」の実現に向けた授業改善

・ 実生活に関連付けた課題に取り組む中での「個を活かす協働的な学び合い」

・ 基本と応用・実践とを一体的に捉えた上での「学んだ知識・技能の活用」

・ 児童生徒の次への意欲につなげるための「フィードバック」

（４）小中連携の充実

異校種勤務や他校種免許の取得

（５）ICT 活用の推進

・ 映像による理解促進、情報を収集、整理、考えのまとめに活用

・ 他校の児童生徒等との学び

・ ICT の活用と対面・集団による学びとか柔軟に組み合わせられた指導

（６）特別支援学級への教員配置の充実

＜効果検証＞

・ 大学等と連携した調査研究

・ モデル校

・ 香川県学習状況調査